

政策プロジェクト成果概要一覧

No.	テーマ	概要	検討時に設定した課題	具体的な事業等の提案	成果(事業化につながったもの)
1	企業誘致と企業立地補助金の再構築	地域経済の活性化及び人口減少対策に位置付けられている産業振興(企業誘致)について、現状の課題を踏まえ新たな制度・体制を検討する。	○本市の企業誘致における誘因要素は他市町と横並びであり、本市独自の要素が乏しい。 ○全国的な製造業の工場的高度化により、工場誘致は人口維持の妙手になりにくい状況	【短期的な提案(次年度から実施すべき提案)】 ①進出企業等への軽減税率の適用 ②正規雇用採用時の企業立地補助金の傾斜配分導入 ③工場集約化における企業立地補助金の嵩上げ措置の導入 ④敦賀港の取扱量向上に資する場合における企業立地補助金の嵩上げ措置の導入  【中長期的な提案】 ①市内企業と一定量の取引実績のある企業が進出した場合の企業立地補助金の嵩上げ措置の導入 ②起業支援制度の導入 ③平成35年度を目途とした現行の企業立地補助金の再検討	○ 提案内容を基に企業立地補助金制度の一部を改正
2	小学校での電力の「見える化」	市内の小学校において電力使用量を「見える化」し、エネルギー教育の振興及び環境意識向上を図るための企画案を作成する。	○COP21による世界的な温室効果ガス排出抑制の潮流を背景とした一層の省エネ・再エネ推進の必要性 ○しかし、一般国民や市民レベルに意識の浸透・共有化が進んでいない現状 ○国際合意といった敷居の高さや超長期的かつ地球規模の課題といった問題の大きさが理解促進や活動推進の阻害要因となっている状況	「身近」と「教育」を重視し、市内小学校を対象に、使用電力量の可視化と生徒自らの削減目標と、そして実施を促す誘因要素を設定し、モデル校での実施から全市へ展開 ① Plan: 使用電力量の見える化と目標設定 市内小学校に新設備等を導入し、使用電力量の見える化を実施し、生徒自らが削減目標を設定 また、生徒自らが具体的な省エネ行動を立案 ② Do: 省エネ行動の実施 7月の1ヶ月間など、短期間に集中して、生徒自らが立案した省エネ行動を実施 ③ Check: 目標達成の検証とインセンティブ 目標の達成状況を検証し、達成した場合には、生徒に人気の高い給食を一品追加するなどのインセンティブを付与 ④ Action: 目標設定や省エネ行動の改善 当該年度の一連の活動を通じた次年度への改善 ※上記を初年度はモデル校1校に適用し、将来的には市内全校へ適用 ※その際には、学校間の競争も考えられる	
3	中小企業等向け技術開発・成長分野進出等補助金	20年後、30年後を見据え、市内中小企業等、特に製造業や卸売業等を育て、従来の原子力発電所に寄り添った産業構造からの複軸化を図る。 併せて、ハーモニアスポリス構想の産業間連携(新産業創出)実現のツールとして検討を行う。	○本市にて第2産業団地の企業進出や大企業向けの支援制度は存在するも、これまで本市の地域経済を支えてきた市内の既存中小企業向け支援制度は殆どない状況	厚みのある産業構造と地域経済の実現に向けて、市内中小企業の支援を重視し、以下の3つの支援を行う「敦賀市中小企業等支援補助金」を設定 ① 生産性向上のための設備投資及び販路拡大支援 ・対象: 市内中小企業の設備投資や販路拡大に要する経費 ・補助: 100万円限度/件、1/2 ② 技術開発支援 ・対象: 市内中小企業の新商品等の技術開発に要する経費 ・補助: 300万円限度/件、2/3 ③ クラウドファンディング支援(事業資金調達支援) 市内中小企業が実施する新商品・サービス開発や創業に要する経費について、民間金融機関と連携し、本市がクラウドファンディングを実施し、資金調達を支援	○ 提案内容のうち、①及び②につき、中小企業支援事業として事業化
4	地域で行う就業体験	地域で職場体験をすることにより、地域産業の認識や後継者創出につなげるとともに、幼少期、初等教育課程などにおいて、様々な職業体験を通じて、将来の働く姿をイメージする機会を創出することを目指す。 また、対象者を市民に限らず、広く募集を行い、敦賀内外の人に対して、敦賀の魅力を発信することを目的とする。	○新卒離職率は年々上昇傾向にあり、雇用の安定性も低下している。 ○その背景には、就業体験機会の不足があると推測	将来の市内での移住・定住促進を見すえ、市内全体を就業体験の場として、市内企業等の協力を得て、観光コースとしての就業体験を実施 ① コース設定 第一次産業コース、第二次産業コース、第三次産業コースといった産業大分類ごとにコースを設定 ② 対象者 特に設定なし(子どもから大人まで幅広く受入) ③ 就業体験内容例 ア 第一次産業コース: 釣り、地引網 イ 第二次産業コース: コンクリート製品の検査 ウ 第三次産業コース: 菓子製作 ④ 今後の課題 ・協力事業者の確保とデータベース化、具体的なモデルコース化	
5	コミュニティバス等の利用促進	市民の足であるとともに、観光客の市内周遊手段であるコミュニティバス・ぐるっと敦賀周遊バス等の二次交通について、平成29年10月の路線・ダイヤの改正に加え、更なる利用促進策を検討する。	○コミュニティバスの利用者が顕著な減少傾向 ○しかし、人口減少・超高齢社会の中で、自家用車に頼らない社会の構築は必須 ○そのため、バスの利用促進が不可欠	超長期的な自家用車に頼らない社会の構築に向け、全市民的なバス利用の促進に向け、次の事業の実施を提案 ① つるがフォトトリップ(つるが+フォト(写真)+トリップ(旅行)) バスで行ける敦賀のいい所をスマホで撮影し、自らのSNSにアップ、優秀作品に対して図書券500円等を進呈 ② 小型ワゴンバス 山間部高齢者が気軽にバス利用ができるよう、小型ワゴンバスを導入し、将来的には山間部地区住民自身がバスを運行 ③ バスロケーションシステム バスの待ち時間における不便さの解消に向け、バスがどこを走っているかを知らせるアプリを開発し、利用者がスマホでモニタリングできるようにする ④ ぐるっと周遊バスの999化 本市の観光素材の一つである銀河鉄道999をモチーフとし、現在のバスラッピングだけでなく、メーテルや鉄郎といった登場人物の声による車内アナウンスの実施検討	○ 提案内容のうち、①及び③につき、コミュニティバス利用促進事業として事業化